

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)京都エミナース立体駐車場新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				-	-	3.0	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				3.0	1.00	-	-	3.0
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0	1.00	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)		-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	3.0	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				2.4	0.40	-	-	2.4
1 広さ・収納性				3.0	0.40	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)	●とも	C(独自加点)		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画	●自然	D(独自基準)		1.0	1.00	-	-	-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	1.00	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.6	0.30	-	-	2.6
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		2.5	0.30	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.50	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.50	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	-	-	-	-

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			2.2	0.20				
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20				
	3	電気設備			1.0	0.20				
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20				
	5	通信・情報設備			3.0	0.20				
3 対応性・更新性					2.8	0.30			2.8	
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり			2.2	0.30				
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率:0.12	1.0	0.60			
3.2 荷重のゆとり					4.0	0.40				
3.3 設備の更新性					3.0	0.30				
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.2	0.40			
	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	設備配管は露出配管となっている。	3.0	0.29			
	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		4.0	0.29			
	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.14			
	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		-	-			
	6	バックアップスペースの確保	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.29			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40			2.2	
1 生物環境の保全と創出					●とも	A'(全国版準用)	1.0	0.30	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮					○	C(独自加点) D(独自基準)	3.0	0.40	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮							2.5	0.30	2.5	
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上					●とも, 自然	A'(全国版準用)	3.0	0.50		
3.2 敷地内温熱環境の向上					●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5	
LR1 エネルギー							-	0.40	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制										
2 自然エネルギー利用					●自然	A(全国版準用)	3.0	0.13	3.0	
3 設備システムの高効率化					●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.10	5.0	0.63	5.0
4 効率的運用							2.5	0.25	2.5	
集合住宅以外の評価							2.5	1.00		
4.1 モニタリング							3.0	0.50		
4.2 運用管理体制							2.0	0.50		
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング							3.0			
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	-	2.9
1 水資源保護							3.0	0.20	3.0	
1.1 節水										
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	1.00		
1 雨水利用システム導入の有無					●自然	A(全国版準用)	3.0	0.70		
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.30		
2 非再生性資源の使用量削減							2.9	0.60	2.9	
2.1 材料使用量の削減					●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.10		
2.2 既存建築躯体等の継続使用							3.0	0.20		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	5.0	0.10		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					●大切	A(全国版準用)	4.0	0.20		
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.20	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	1.00		
3.2 フロン・ハロンの回避										
1 消火剤										
2 発泡剤(断熱材等)										
3 冷媒										
LR3 敷地外環境							-	0.30	-	3.2
1 地球温暖化への配慮							CO2排出率:31%	4.7	0.33	4.7
2 地域環境への配慮								2.4	0.33	2.4
2.1 大気汚染防止							燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	
2.2 温熱環境悪化の改善					●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50	
2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.6	0.25	
1 雨水排水負荷低減								3.0	0.33	
2 汚水処理負荷抑制										
3 交通負荷抑制							駐車場の導入路を確保し、渋滞を起こさない配慮をした。	4.0	0.33	
4 廃棄物処理負荷抑制								1.0	0.33	
3 周辺環境への配慮								2.7	0.33	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	
1 騒音								3.0	1.00	
2 振動										
3 悪臭										
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制								3.0	0.40	
1 風害の抑制								3.0	0.70	
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制								3.0	0.30	
3.3 光害の抑制								1.6	0.20	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								1.0	0.70	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる